

IT時事ネタキーワード「これが気になる！」(第16回)

テレビ業界に新潮流「インターネット放送」

2017.06.02

パソコンやスマートフォンで見るインターネット放送や、オンデマンドビデオサービスの出現で、一般ユーザーのテレビに対する向き合い方や考え方が変わりつつある。特に2016年4月11日に本放送を開始したインターネット放送「AbemaTV」の勢いが止まらない。

AbemaTVでは、ニュースチャンネルをはじめ28チャンネルがノンストップで番組を流す。テレビ受像機やアンテナも不要。手持ちのスマホやパソコンで、いつでもどこでも無料でテレビ放送が楽しめる。このスマホ時代に重宝されないわけがない。

こうした状況下、「スマホさえあれば十分」と、テレビを持たない人も増えているという。そんなこんなで従来のテレビ放送の需要は落ち込み、広告収入がガタ落ちともいう話もある。企業PRの重要な媒体の1つであるテレビが、大きく様変わりしようとしている。昨今のテレビ放送の勢力図と、広告媒体としてのあり方を探ってみよう。

テレビ界に殴り込み。「AbemaTV」



ネットを通じてテレビ局が放送を行う「AbemaTV」のWebページ。現行では28のチャンネルが放送される

AbemaTVは、サイバーエージェントとテレビ朝日の出資で設立されたインターネットテレビ局だ。2016年の4月11日に放送を開始した。

AbemaTVの前身である、生放送やライブカメラを中心に誰しもが見て、そして放送もして楽しめる動画配信プラットフォーム「FRESH!」を、筆者はサービス開始時から見ていた。AbemaTVの初期にはFRESH!チャンネルが放送されていたこともあって、AbemaTVを先行放送(3月1日～)から見守ってきた。

AbemaTVの初期は、生放送としては面白いものの、テレビ放送としては内容が薄く冗長に思える番組も見られた。ドラマや音楽PV、アニメなども、他媒体のコンテンツが多く、いわゆるテレビとは一線を画するものに思えた。

しかし徐々に進化する。テレビ朝日という現行のテレビ局が絡んでいたこともあり、テレビ朝日のコンテンツのまとめ放送などととも、局アナが司会を担当したり、現行の人気番組と連動した特別版を放送したりなどで、オリジナル番組の質を上げていったように思う。

それに加えて、インターネットならではの即時性や速報性の高い情報の配信、テレビ放送の枠にとられないアクの強さやハプニング性を重視しているほか、電波に乗せないため、チャンネルは増やし放題ゆえ、趣味性の高い専門チャンネル(釣り、将棋、マージャン、ゴルフ、鉄道など)も充実。アニメやドラマなど、過去のテレビ資産を長時間まとめて放送している。また、コメントを入れられる利点を生かし、出演者とユーザーが対話する番組を制作するなど、工夫を凝らして今に至る。

AbemaTVが大きく注目されたのは、サービス開始直後に起こった熊本地震といわれる。AbemaTVでは、震災直後からテレビ朝日の報道特別番組のサイマル配信に切り替えた。通常編成はすべて打ち切るなど、最新情報の配信にいそむ姿勢に好感を持った人も多かった。このフットワークの軽さと、スマホさえあれば最新情報をチェックできる便利さが大きく評価され、その後の発展にもつながったといえる。

放送の勢力図が大きく変わる… 続きを読む